

\*\*\*\*\*

第 2 6 8 号

2012年10月16日

# 日 本 気 象 学 会

## 関 西 支 部 ニ ュ ー ス

- 関西支部第30期役員の選出
- 2012年度 関西支部理事会報告
- 2012年度 関西支部総会および年会報告
- 関西支部 第34回 夏季大学報告
- 2012年度第1回例会（四国地区）、  
第2回例会（中国地区）、第3回例会  
（近畿地区）について
- 会員種別について
- メールアドレス登録のお願い
- 住所変更届のお願い
- （社）日本気象学会入会案内

〒 540-0008

大阪市中央区大手前4丁目 1-76

大阪合同庁舎第4号館

大阪管区气象台内

日本気象学会関西支部

振替 00980-5-18318

TEL (06) 6949-6322

FAX (06) 6944-2121

ホームページ：

<http://www.ms-j-kansai.jp/>

E-mail：

[info@ms-j-kansai.jp](mailto:info@ms-j-kansai.jp)

(注：メールアドレスはスパム対策のため全角で記して  
います。メール送信の際は半角で入力してください。)

\*\*\*\*\*

\*\*\*\*\*

### ○ 関西支部第30期役員の選出

日本気象学会関西支部は役員選挙を行い、第30期の役員（任期：2012年7月～2014年6月）を選定しました。また、4名の幹事が指名されました。

	(第30期役員)	(新役員の所属)
常任理事	石岡 圭一	京都大学
常任理事	大澤 輝夫	神戸大学
常任理事	竹川 元章	大阪管区气象台
常任理事	難波 良彰	日本気象予報士会関西支部
常任理事	西嶋 信	大阪管区气象台
常任理事	藤村 弘志	大阪管区气象台
常任理事	向川 均	京都大学
地区理事 (近畿)	北村 佳照	神戸海洋气象台
地区理事 (近畿)	小泉 隆 (井上 進)	日本気象協会関西支社…※
地区理事 (中国)	大橋 唯太	岡山理科大学
地区理事 (中国)	川口 勝正	広島地方气象台

地区理事（四国）	寺尾 徹	香川大学
地区理事（四国）	土井 雅彦	高松地方気象台
会計監査	高木 次夫	日本気象協会関西支社

幹事	井口 敬雄	京都大学
幹事	家藤 敦章	大阪管区気象台
幹事	藤原 義寿	大阪管区気象台
幹事	酒井 亮太	大阪管区気象台

※地区理事（近畿）小泉 隆氏の人事異動に伴う補充として井上 進氏を推薦した。

### ○ 2012 年度関西支部理事会報告

6月30日11時から、「エル・おおさか」において、2012年度総会に先立ち理事会が開かれました。竹川常任理事の司会で、午後からの総会を前に、各議題の報告及び審議が行われました。

まず、第30期役員が選出されたことが報告されました。地区理事（近畿）小泉隆氏は、当選後人事異動となったため、補充として井上進氏を推薦しており、午後の総会で承認を受けることになることが説明されました。また藤村弘志氏が支部長に選出されました。次に2011年度の事業報告、収支決算報告、及び会計監査報告について、続いて2012年度事業計画案と予算案について各担当理事が説明し、議案はすべて承認されました。



理事会の様子

### ○ 2012 年度 関西支部総会および年会報告

<2012年度気象学会関西支部総会> 2012.06.30 13:00~13:30

総会では最初に総会成立審査を行い、家藤幹事から、理事を含む役員17名、通常会員の出席者5名、委任状103名をあわせて125名で、関西支部通常会員数160名の過半数80名を超えており総会が成立する旨、報告がありました。続いて、第30期役員が紹介されました。その際、小泉隆氏の人事異動に伴い補充された井上進氏が地区理事（近畿）に承認されました。その後、藤村支部長の開会の挨拶に引き続いて、京都大学の榎本氏を議長に選出して、議事が進められました。まず、2011年度の事業報告・収支決算報告・会計監査報告が行われました。続いて2012年度事業計画案・予算案が審議されました。関西支部理事会からは、夏季大学テキスト、年会・例会講演要旨集をカラー化することなどが提案されました。議題については、原案どおりすべて賛成多数で承認されました。

議長解任の後、総会は閉会となりました。

＜2012年度気象学会関西支部年会＞ 2012.06.30 14:00～16:30

年会には総会出席者の他、研究発表に関係した大学生など約34名の出席となりました。発表題数は7題と昨年比べて2題減りましたが、講演時間を20分としてじっくり発表を聞くことができました。

座長は、前半4題を石岡理事（京都大学）、後半3題を西嶋理事（大阪管区気象台）が担当しました。雪結晶の成長に関する研究、偏西風波動の構造に関する研究、水田からの温室効果ガスの放出に関する研究、木津川の増水の状況に関する研究、1ヶ月アンサンブル予報における予報誤差変動に関する研究、大気境界層内のストリーク構造に関する研究、大気レーダのサンプリング受信機の開発に関する研究など、幅広い内容の発表に充実した年会となりました。

年会終了後は懇親会が行われ、関西支部の活動についての話などに花が咲きました。



年会の光景

#### ○関西支部 第34回 夏季大学報告

2012年8月25日（土）に、京都駅前のキャンパスプラザ京都の第1講義室（5F）で夏季大学を開催しました。今回のテーマは「夏の異常気象は予測できるのか？」で、以下のとおり3題の講義が行われました。

- 1 「モンスーンと沙漠と偏西風 ～日本に夏をもたらす大気循環～」  
榎本 剛氏（京都大学防災研究所准教授）
- 2 「オホーツク海高気圧と夏の異常気象」  
立花 義裕氏（三重大学大学院生物資源学研究科教授）
- 3 「長期予報の実際」  
前田 修平氏（気象庁地球環境・海洋部気候情報課エルニーニョ情報管理官）

昨年に引き続き、今年の夏季大学も週末の土曜日1日の開催としました。今回の受講者数は昨年よりも10名程度増加し84名となりましたが、昨年よりも大きな講義室で開催しましたので、受講生の皆さんはゆったりと座って聴講することができました。また、今回の夏季大学では、昨年同様、講義内容を復習し理解を深めるために、夏季大学修了後に受講者にもみ講義スライドを公開しました。さらに、講義で使用する図表の理解を容易にするために、受講生に配布する夏季大学テキストを今回初めてフルカラーで印刷しました。

一方、今回の夏季大学の内容に関し京都新聞社から取材申し込みがあり、翌日の京都新聞朝刊に夏季大学の紹介記事が掲載されました。新聞等マスコミで関西支部夏季大学が紹介されるのは初めてであり、異常気象や気候変動という今回のテーマに対する社会的関心の高さをうかがい知ることができます。また、講義中に受講者から極めて活発な質問があったことも、今回の夏季大学の特徴です。

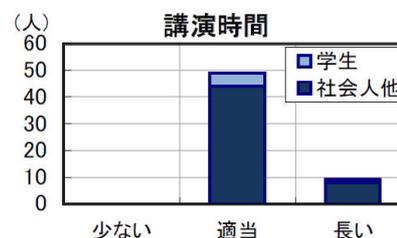
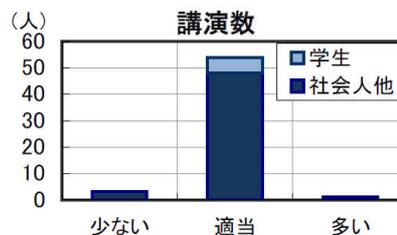
各講師からは以下の内容の講義をして頂きました。まず、榎本氏による「モンスーンと砂漠と偏西風 ～日本に夏をもたらす大気循環～」の講義では、太平洋高気圧、チベット高気圧や小笠原高気圧など日本に盛夏期の天候をもたらす大気循環の特徴について概観した後、北太平洋の夏季モンスーンやモンスーン・沙漠メカニズムについてわかりやすく説明されました。また、榎本氏が発見された、日本の夏季の天候と密接に関連する亜熱帯ジェット上の準定常波列であるシルクロードパターンについて、ロスビー波の力学を基礎とした興味深い解説がなされました。さらに、受講生からの質問に対する回答として、シルクロードパターンがPJ (Pacific-Japan) パターンを誘起するという大変興味深い関連性も指摘されました。



第2講の立花氏による「オホーツク海高気圧と夏の異常気象」の講義では、日本に冷夏をもたらす原因として知られているオホーツク海高気圧とその成因について、立花氏のご自身で行ってこられた研究を中心にわかりやすく解説されました。特に、寒冷なオホーツク海の特異性や、地理的制約によるオホーツク海での観測の困難性など、立花氏自身の現場観測に基づく大変興味深いお話を伺うことができました。さらに、最近、立花氏らの研究グループが発見した、冬の北極振動の符号と次の夏季のユーラシア域での大気循環場とが関連するという興味深い仮説についても説明されました。この仮説の検証を含め、オホーツク海周辺での大気海洋相互作用に関する研究には興味深い未解明の問題が数多く残されていることが示されました。

そして、第3講の前田氏による「長期予報の実際」の講義では、気象庁が発表している長期予報の概要について説明された後、気候情報課でご自身が長期予報を担当されたときの体験を交えて、実際にどのようなプロセスを経て長期予報が発表されるのか、また、長期予報を行う科学的根拠は何であるのかについて、大変興味深く講義されました。さらに、長期予報の利活用を含めて長期予報の将来計画についてもお話し頂きました。前田氏の熱意のこもった講義は大変印象的で、講義の後、受講生と大変熱心な質疑応答が行われました。

受講者に対して行ったアンケート結果は次のとおりです(回収率70%)。受講者は、男性が全体の8割強で、女性の参加比率は昨年と同程度でした。年代別で見ると

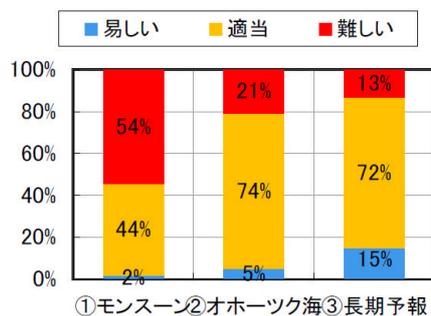


50代と60代が昨年（39%）に比べ多く、全受講者の44%を占めました。この年代層の受講者は近年増加する傾向にあります。一方、昨年0名だった10代は3名となり、一昨年並に戻りました。ただ、20代の受講者は少なくなりました（9%、昨年は27%）。また、気象学会員の割合が41%と過去3年間の平均（30%程度）と比較して非常に多かったのも今回の特徴です。全体の64%が京都府・大阪府・兵庫県の3府県からの参加でした（昨年は78%）。愛知県、千葉県、島根など遠方からの参加もありましたが、昨年全受講生の9%を占めた東京都からの受講者の割合は2%に低下しました。また職業別で見ると、昨年（32%）同様、会社員の参加者が全体の28%で最も多く、公務員が18%、教員が12%となり、教員が少なく会社員や公務員が多いという傾向が見て取れました。昨年多かった（21%）学生の割合が、今年は少なくなりました（11%）。気象学への若年層の関心を高めるためにも、関西の大学を中心に、大学生への働きかけを工夫していく必要があるように思います。夏季大学を知ったきっかけは、昨年（40%）と同様に、予報士会などの電子メールが38%で最も多く、関西支部WebPageを合わせると53%となりました。ただ、気象学会機関誌「天気」を見て参加申込をされた受講生の割合は26%で、昨年（6%）に比べ大幅に増加しました。「天気」への公示広告の重要性も再認識する必要があると思われます。受講経験を見ると、今回初めて参加された方が全体の39%（昨年は55%）、2から4回目の参加者が44%（昨年は35%）で、昨年に比べリピーターの割合が増加しています。

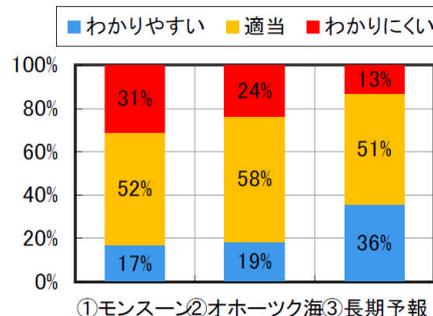
夏季大学に参加した感想を尋ねると、講義数および講義時間が「適当」と回答した受講生が8割以上と昨年同様に多く、講義時間が「長い」と回答した割合は16%で、「短い」との回答は0でした。それぞれの講義の難易度と分かりやすさについては、昨年に比べ難易度が「難しい」と答えた割合はかなり増加しました。今年の夏季大学の話題である異常気象のメカニズムに対する理解を深めるには、ロスビー波の力学など気象力学に関する知識が必要であり、どうしても数式を用いた説明をせざるを得ません。このため、「難しい」という印象が増加したように考えられます。今後、説明をさらに工夫していく必要があると感じました。

また、今後の夏季大学で取り上げてほしいテーマを尋ねたところ、「気象災害」を希望した割合が24%、「気候変動」が16%、「天気予報」が13%で、昨年とほぼ同様の傾向を示しました。その他にも「大気大循環」（10%）や「世界の気候」（9%）、

内容の難易度



講義の難易度



「環境問題」(7%)などのテーマを希望する受講生が多く、今年度は、気候変動や地球規模の大気循環に興味を持つ方が数多く参加されたという特徴を反映した結果となりました。

今回のアンケート結果をもとに、関西支部では、多くの皆さんに満足していただける夏季大学を企画していきたいと思っております。来年度の夏季大学にも多数の皆様のご参加をお待ちしております。

### ○ 2012年度第1回例会(中国地区)、第2回例会(四国地区)、第3回例会(近畿地方)について

#### ・第1回例会(中国地区)

開催日：2012年11月17日(土)

会場：岡山大学理学部21講義室(2階)

発表申込締切：10月17日(水)

#### ・第2回例会(四国地区)

開催日：2012年12月15日(土)

会場：高知大学メディアホール

(高知大学朝倉キャンパス メディアの森(総合情報センター(図書館)))

発表申込締切：11月15日(木)

#### ・第3回例会(近畿地区)

開催日：2012年12月17日(月)

会場：大阪管区気象台 16F 大会議室

発表申込締切：11月15日(木)

詳細については、関西支部HPのお知らせを参照してください。多数の参加をお願いします。

### ○ 会員種別について

会員の種別につきましては、2006年度理事会・総会において「支部会員の種別化について、2004年8月から既に本部で実施している形をそのまま準用し、今後通常会員のみ選挙権や議決権をもつこととする。」ことが承認されました。このため、通常会員は総会の議決権及び役員選挙における選挙権と被選挙権があり、特別会員にはありません。特別会員から通常会員に、あるいはその逆への変更はいつでもできますので、希望される方は日本気象学会事務局まで連絡して下さい。

### ○ メールアドレス登録のお願い

関西支部ニュースは年3回(5月、10月、3月)発行予定で、2006年度から関西支部ホームページに掲示して閲覧していただいております。支部ニュース発行、総会・年会・例会などの開催通知等は支部全会員にE-mailで配信しています。まだ登録されていない会員の方は、会員氏名・番号、E-mailアドレスを関西支部事務局まで、ご登録いただくよう重ねてお願いいたします(関西支部の連絡先などは最初のページをご覧ください)。



○ (社)日本気象学会入会案内

ホームページ: <http://www.soc.nii.ac.jp/msj/Form/nyukai-j.html>

入会申込書 (個人用)				(社団法人)日本気象学会 FAX: 03-3216-4401			
(太線の枠内だけを記入して下さい)							
個人会員番号		所属支部		受付日	20	年	月
				承認日	20	年	月
フリガナ				生年月日	19	年	月
姓 名				職業			
性 別	1. 男	2. 女					
郵便物の送付先							
〒 -				(電話)			
現住所 (郵便物の送付先と同じ場合は記入しなくてよい)							
〒 -				(電話)			
勤務先または大学名 (部署、学部等詳細に) (郵便物の送付先と同じ場合は記入しなくてよい)							
〒 -				(電話)			
入会時の「天気」への「住所」の掲載							
1. 郵便物の送付先 2. 現住所 3. 勤務先・大学名 4. 掲載を希望しない							
電子メールアドレス @							
(学会メーリングリストへの登録は学会HP ( <a href="http://www.soc.nii.ac.jp/msj/">http://www.soc.nii.ac.jp/msj/</a> ) からお申し込み下さい)							
会 員 種 別 (希望の記号を○で囲む。賛助会員は会費(4万円以上)を記入)							
1. 通常A (一般) 11. 特別A (一般) 共に (会費 6,900円、「天気」を無償配布) 2. 通常B (一般) 12. 特別B (一般) 共に (会費12,600円、「天気」と「気象集誌」を無償配布) 3. 通常A (学生) 13. 特別A (学生) 共に (会費 4,200円、「天気」を無償配布) 4. 通常B (学生) 14. 特別B (学生) 共に (会費 8,100円、「天気」と「気象集誌」を無償配布) 5. 通常A (高年) 15. 特別A (高年) 共に (会費 4,200円、「天気」を無償配布) 6. 通常B (高年) 16. 特別B (高年) 共に (会費 8,100円、「天気」と「気象集誌」を無償配布) 17. 特別C (会費 6,600円、「気象集誌」を無償配布)							
注① 通常会員には総会での議決権、役員に関する選挙権などがあり、特別会員には有りません。 注② (高年) 会員は本人がこの種別を希望し、前年12月末に65歳以上に達してい個人です。							
31. 賛助会員 (会費 万円、「天気」と「気象集誌」から希望のものを無償配布)							
希望支部 (外国在住者のみ記入。希望なしは関東支部。(国内在住者は自動的に決定されます))							
1. 北海道 2. 東北 3. 関東 4. 中部 5. 関西 6. 九州 7. 沖縄							
機関誌の配布開始希望月 (年途中からの会費は月割りとなります)							
天 気				気象集誌			
定期購読希望 (機関紙以外の刊行物)							
気象研究ノート				1. 希望する ( 号から)		2. 希望しない	
大会予稿集				1. 希望する ( 年春から / 秋から) ( 号から)		2. 希望しない	
来年からの会費納入方法							
1. 郵便口座からの引落し 2. 銀行口座からの引落し 3. 郵便局からの振込み 注① 1. 2. の場合は折り返し必要書類をお送りします。記入のない場合は、3. とします。 注② 手数料が安く、全国的に利用できる! がお勧めです。							
通信欄 (その他)							
月 割 り 会 費	号数	単価	小計	(月割り会費の単価)			
天気		円	円	天気 : 一般 580円、学生・高年 350円。			
気象集誌		円	円	気象集誌 : 一般 950円、学生・高年 650円、 特別C 1,100円。			
合計			円				

(2004.12版)